



北里大学同窓会栃木県支部  
 ニュース No.11  
 2013年5月1日発行



支部講演会・懇親会のお知らせ

北里大学同窓会栃木県支部支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の支部講演会、及び懇親会を下記の要領で開催します。多くの方々のご参加をお願いします。

開催日時：2013年6月29日（土）

支部講演会 午後4時30分より

講師：岩手県立磐井病院臨床検査技師長  
 高橋幹夫先生

演題：「東日本大震災における感染制御支援  
 活動から見たもの」

支部懇親会 午後5時40分より

参加費 会員5,000円  
 40歳未満の会員は3,000円  
 （当日、受付で徴収します）

会場 宇都宮市 ホテル ニューイタヤ



住所 〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り 2-4-6  
 TEL 028-635-5511

支部講演会及び懇親会の参加申し込みは、同封の返信ハガキに必要事項を記入し、5月中にご投函下さい。

支部講演会講師・高橋幹夫先生講演要旨

「東日本大震災における  
 感染制御支援活動から見たもの」

北里大学衛生学部 昭和59年度卒業  
 岩手県立磐井病院 臨床検査科/ICT  
 ICAT 統括補佐 高橋 幹夫

3.11 大震災で岩手県沿岸部は巨大津波により壊滅的な被害を受けた。

私達 ICAT（いわて感染制御支援チーム）は、岩手医大付属病院と4県立病院の ICT（院内感染対策チーム）が一緒になって、避難所の感染対策支援と避難所の感染症症候群サーベイランスを実施した。日本感染症学会では「震災と感染症」として感染症学雑誌の第86巻第3号別刷として掲載して頂いた。この他にも、岩手医大付属病院の櫻井滋先生を中心に多くの報告がおこなわれた。大津波により岩手県沿岸部の定点医療機関が被災し、地域の感染症流行状況が不明であったこと。多数の被災者が集団生活を余儀なくされた避難所では感染リスクが高いとの判断から、私達は ICAT 活動を開始した。



（東日本大震災直後の岩手県大槌町）

この支援活動を通して見た、地域、避難所、そして被災者の生活のごく一部を報告し、DMAT や支援医療班、保健師チームと同様に、感染制御に特化したチームを編成して活動する必要性を強調させて頂きたい。更には、岩手県の常設機関となったICATの平時からの活動をも紹介したい。

最後に、この活動からみえたものは人の人との信頼関係や絆であると痛感し、私が初めて人の役に立てたと実感したことを、北里大学同窓会の皆様と共有できることを願います。感染症関連で名のある北里大学を卒業し、この様な活動をさせた頂いた磐井病院関係者にお礼を申し上げ、当日は拙い報告となりますことを事前にご容赦願います。



日時 2012/03/17 場所 一関市文化センター 一関市大手町2-18 開始 午後2時開始  
 問合せ：岩手医科大学健康総合センター 019-651-5111 月3日11  
 岩手県立総合医療センター 019-629-5472  
 〒982-2395 岩手県盛岡市山王町1-1 (ICAT事務局内)

(ICAT活動を市民の皆様へ報告した市民フォーラムのパンフレットです。)

\*\*\*\*\*

ヤッホー♪♪ みんな～、シラネアオイを観に行こう～！



いつ？

今でしょ！・・・6月15日（土）です♪♪♪

滝支部長、岸副支部長にお願いして「日光白根山」登山（山歩き）を計画しました。

美味しい空気、綺麗な景色でリフレッシュしましょう！皆様、奮ってご参加ください。

集合場所：

丸沼高原の日光白根山ロープウェー駐車場

集合時間：

平成25年6月15日午前8時集合

雨天決行。

ただし集合後、日光戦場ヶ原散策に変更あり。

行程：

①8:10頃ロープウェーで山頂駅まで15分  
 (往復1,800円)

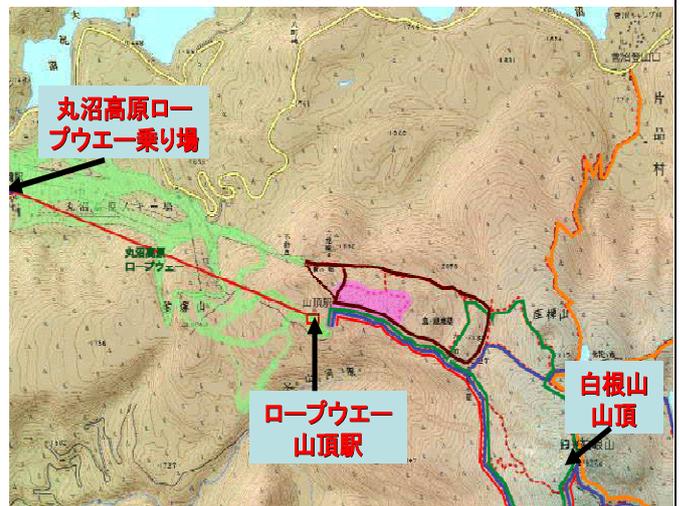
②8:30頃～白根山山頂往復(約4時間)

③12:30頃 山頂駅食堂で昼食と運営委員会、打合

④14:00頃 ロープウェーにて駐車場に戻る。解散。

持ち物(必需品)

- ・登山靴またはトレッキングシューズ
- ・ザック(リュックサック)
- ・水筒(ペットボトルでの代用可)
- ・防寒着・雨具  
 (カッパ・折りたたみ傘もあれば便利)
- ・タオル・バンドナ
- ・おやつ(昼食は食堂で摂る予定です。)
- ・腕時計
- ・その他(非常食、健康保険証、ビニール袋等)



申込先(連絡先)：

返信ハガキに記入して。又は、直接以下に連絡下さい。

滝 支部長 tatabox@kitasato-u.ac.jp

090-6533-1555

岸副支部長 090-7419-9162

磯 090-1469-0756

(折返し電話いたします)

## 平成25年栃木県支部新年会開催報告

世話人代表 須藤祐紀子  
(栃木がんセンター)

この度、新年会を開催致しましたのでこの場をお借りしてご報告させていただきます。

去る2013年1月11日(金)に宇都宮市の「THE FLAIR BAR」に総勢21名が集合し、楽しい一時を過ごすことができました。

お酒を片手に思い出話や近況報告に花を咲かせたり、ゲームを楽しんだりとあつという間の3時間でした。またゲーム中の自己紹介もとても興味深いものであり、バー店員によるパフォーマンスもとても盛り上がりました。

今回3名で幹事を務めさせていただき、準備等でご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。しかし、ご参加いただいた方々に「楽しかった～」と言っていただいたことをとても嬉しく思っており、また開催できたらいいなと思っております。次回はより多くの方々とお話しできることを願っています。

最後になりましたが、ご出席の皆様、準備等でアドバイスを下さった支部会の皆様に改めて御礼申し上げます。



(本日の世話人；栃木がんセンターの皆さん、ご苦労さま!!)

## 栃木県支部新年会に参加して

滝 龍雄

今年の支部新年会は、須藤祐紀子さんを始め、栃木がんセンターの若い方々が世話人となって企画してくれた。新年早々の開催となったが、21名の会員が参加してくれた。会場は「THE FLAIR BAR」と言う、中高年の我々では見つけられないような、通りからは何処にあるのか判らない様な奥まった所にある、隠れ家のようなところで、何人かの参加者は場所が分からず、ウロウロしてしまったという、若い人達の感性が光るところであった。



会は、支部長の挨拶と乾杯で始まり、飲み放題ということもあり、急激に場の雰囲気は盛り上がり、参加者の自己紹介が始まると、他県出身で、栃木の大鵬薬品営業所に勤務している茂筑(もたい)さんも、初参加で色々な質問が相次ぎ、中々次に進めない状態であった。



会も半ばに差し掛かった頃、ハプニングで誕生ケーキが準備され、誕生日の近い人のお祝いという段になったが、誕生日が近いという人が何と4人も!! でも、準備したケーキは20人以上で食べても十分な大きさでした。



(お誕生日の斉藤さんを囲んで、ポーズ)

又、会の途中には、ビンゴゲームがあり、世話人の方々が手配した、大学に縁の景品などを巡って、楽しい時間があつという間に過ぎました。

参加者全員、十分に食べてお腹もいっぱい、たっぷり飲んで多少酔酩、笑っすぎてお腹が痛いと言った状況で、ボツボツお開きの時間かなという時に、お店のスタッフによるショータイム。二人の若い男性が上半身裸での火(炎)を使ったショーで、一部では非常に受けていました。

最後に集合写真を撮り、オシマイです。世話人の皆さん、本当にご苦労様でした。



愉しかった新年会も無事終了しましたが、一部の有志は、更に二次会に出かけました。二次会には自治医大病院長の安田先生も合流されましたが、筆者はそれまでの過剰飲酒のため、心残りながら途中退席し、その後、どのような事態になったのかは不明です。

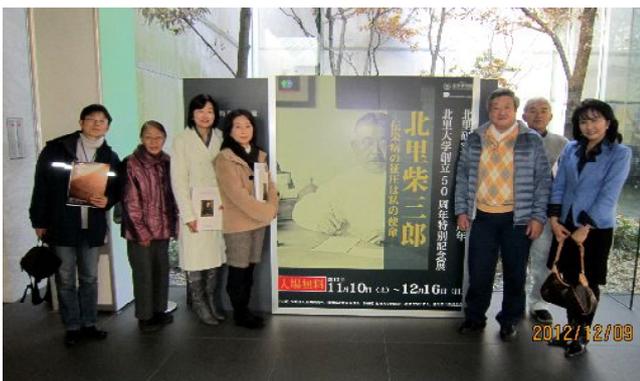
## 北里柴三郎記念展と 相模原キャンパス見学ツアー

朝倉 秀子

大学の相模原に生まれ育ち、薬学部に進学した私にとって、相模原キャンパスは自分の庭のようなものでしたが、大学卒業後、長い間、相模原キャンパスに出掛ける機会がありませんでした。

偶々、平成24年12月9日に、『北里研究所創立100年、北里大学創立50周年記念北里柴三郎展及び相模原校舎見学ツアー』が支部の主催で催されることを知り、懐かしくなって参加しました。

当日は朝の8時に宇都宮駅前に集合し、総勢7名がマイクロバスで相模原に出発しました。途中、東京外環道でトイレ休憩した後、11時頃、第一の目的地である相模原市立博物館に到着し、北里柴三郎展の開催されている特別展示室に這入りました。北里柴三郎展は入場無料で、地元の方々が多く鑑賞していました。私は北里柴三郎博士や北里研究所の事についての知識は余りなかったのですが、滝支部長に色々と解説をして頂き、北里柴三郎博士の偉大な業績や、研究所の歴史、更には数多の博士の弟子についても勉強になりました。特に興味を引いたのは、博士の日常使用していた品々でした。当時の知識人の日々の様子が窺えました。



(北里柴三郎展の入口での記念写真)

お昼頃、相模原キャンパスに向かい、大学病院新棟8階のレストラン「フォレスト」で昼食を摂りつつ、眼下に工事中の新病院の建設の様子を、又、目を転じて丹沢の山々から、私の生まれ育った辺りを眺めました。当日は天気も良く、遠くまでよく見渡せました。

食事の後は、愈々キャンパスツアーです。大学卒業後\*\*年の私にとっては、キャンパスの変貌は予想以上でした。私達の学んだ教養学部の特徴的な建物はなく、新しい建物が目につきました。先ず向かったのは、総合体

育館です。そこでは丁度、福田さんのご子息(医学部4年生)の所属しているバドミントン部が対抗試合を行っていました。



(総合体育館でバドミントンの試合をバックに)

総合体育館を見た後向かったのは、最新の校舎である海洋生命科学部のMB号館です。そこには学生が中心となって管理している小さなアクアリウム(水族館)があり、種々の魚以外にもクラゲの展示が有り、ほのぼのとしました。アクアリウムを出ると直ぐ左手に、俳優であり画家でもある片岡鶴太郎さんが海洋生命科学部に寄贈してくれた魚の絵が展示されていましたが、流石といったタッチで描かれていました。



(海洋生命科学部MB号館1階のアクアリウム前にて)

最後に北里柴三郎博士の立像の前で写真を撮り、楽しかったツアーも終えてバスに戻り、4時頃には帰途に着きました。途中、どうしてもということで、コンビニストアに寄り、\*\*\*を仕入れて、喉を潤しながらバスに揺られ、午後7時過ぎに無事宇都宮に到着しました。

久しぶりに訪れた相模原キャンパスは、新病院工事の真っ最中でしたが、私が学生の頃にはなかった建物も多く、大学の発展を目の当たりにできました。

普段は余り気にはしてはいなかったのですが、今回は、学祖北里柴三郎先生のご業績や、母校である北里大学の現状を知る本当に貴重な機会でした。

この企画を立てて頂いた栃木県支部の運営委員の皆様、本当に有難う御座いました。

## 北里柴三郎記念展と 相模原キャンパス見学ツアー

岸 善明

平成24年12月9日、同窓会栃木支部主催『北里研究所創立100年、北里大学創立50周年記念北里柴三郎展及び相模原校舎見学ツアー』に参加しました。北里柴三郎と北里研究所の偉業を再確認させて頂きましたが、私にとっては44年前の大学受験と相模原での1年間の生活が次々に思い出されて感慨無量でした。

私の初めての大学受験は1969年2月、たしか9日だったと思います。受験先は3年前に青森県に創立した北里大学畜産学部獣医学科でした。受験日の朝は寒い日で、東京在住の従兄弟に付き添いを願い恵比寿から白金校舎に入りました。そこから大学職員に誘導され近くの聖心女子学院に向かいました。筆記試験の受験会場は木造の歴史を感じさせる講堂でした。筆記試験はアツと言う間に終わり、午後3時頃から白金校舎で面接試験がありました。面接は受験生を20～30名ずつに分け、グループ毎に待合室に入り、一人ずつ呼ばれる流れで進められました。椅子に座り順番を待つ間に、各人に高校からの内申書が配られました。私の内申書は5段階評価3.2、全体評価・判定Aでした。私が内申書を見ていると、隣の椅子にいた九州から来ていた受験生が私の内申書を見せると言いました。見せると彼は途端に怒り出し「5段階評価3.2で何故A判定なんだ。おかしい。自分は4.5でB判定だ、栃木の高校はおかしい。」と言いました。「栃木の高校は常に難度の高い問題で試験をするので、どうしても点数が伸びないから5段階評価が低い……！」と説明しましたが、最後まで納得しない様子でした。A判定をもらった本当の理由は別にあったので、苦しい答弁でした。合格発表は2月15日、獣医学科（定数30名、内訳は推薦10、一次10、2次10名でした）の合格者の発表人数は11名でした。

18～19歳であった相模原での1年間は、部活(WV)、授業・講義・不可は3科目までの勉強、座間荘の生活であつという間に終わりました。WV、授業・講義・勉強、座間荘の生活ではそれぞれに、楽しい沢山の思い出が出来ました。そして4月上旬、東京の桜を見ながら、上野駅から夜行急行・八甲田号に乗り雪が残る白い山々を見ながら十和田に向かいました。十和田の町からは八甲田山系の真っ白な山が一望でき感動しました。

相模原の生活から44年たち、定年退職し第2の人生に入りました。現在の私は北里で勉強した獣医師の仕事、北里同窓会、WV-OB会等々……北里に関わる用務で充実した生活を送っております。最後に、同窓会の活動は思った以上に楽しいものです。活動メンバーの半数以上は高齢化世代に入る2歩ほど手前の者ですが、常に気持ちは青春時代です。若い人ばかりでなく、定年組を含めた多くの方々の参加をお待ちしております。

## 初めまして、茂筑です！

はじめまして、北里大学 水産学部 生化学教室 2001年卒の茂筑(モタイ)です。簡単に自己紹介をさせていただきます。出身地：新潟県柏崎市 現在地：栃木県宇都宮市 職業：大鵬薬品工業(株) 宇都宮出張所 MRをしています(栃木県立がんセンターと済生会宇都宮病院を主にお邪魔させていただいております)。就職して初めての赴任地が栃木で、今年度で13年目となりました。そろそろ、異動の危険性が高いです。



家族構成は妻と3人の子供の5人家族で毎日が、子供たちとの格闘です。名字の「茂筑」は地元でもほとんどいなく、親族以外では会ったことがありません。地元には「茂筑」と書いて「モチク」と読む人やモタイでも「茂田井」と書く人がいます。我が家はどのような経緯かわかりませんが、混ざってしまったようです。栃木県にも同姓の方がいると聞いたことがありますが、まだ、お目にかかったことはありませんが、何か、つながりがあるかもしれません。



趣味は、実家が海まで目と鼻の先ということもあり、夏の帰省時には素潜り(サザエや牡蠣が採れますが密漁ではありません)や釣りをするのが一番の楽しみです。栃木での週末は子供に振り回され、なかなか一人の時間はありますが、ゴルフ、釣り、バスケット、家庭菜園

等をやっています。

北里大学栃木県支部の行事では今年の新年会から参加させていただきました。栃木県支部の皆様とは、ほとんどの方が初対面でしたが、とても暖かく迎えていただき、楽しい時間を過ごすことができました。水産学部の友人とは卒業後も定期的に会ったり、卒業して間もない頃は、毎年、大船渡へ遊びに行くなど交流が多かったのですが、今回、他の学部の方と接することができ、北里大学としての強い絆を感じることができました。もう少し、早くこのような行事に参加できていればというのが、率直な感想です。今後もよろしく願いいたします。

## リレー・フォー・ライフとちぎ in Utsunomiya 2013 への参加

栃木県支部 支部長 滝 龍雄  
栃木がんセンター 飯野 望

今年も「リレー・フォー・ライフとちぎ in Utsunomiya 2013」が9月14日(土)～15日(日)に宇都宮城址公園で開催される予定です。この「リレー・フォー・ライフとちぎ in Utsunomiya 2013」は、日本対がん協会と栃木県実行委員会が主催するもので、栃木がんセンターが中心となって開催されています。

この「リレー・フォー・ライフ」は

- 1：がん患者支援への意識向上を目指し
  - 2：がんに対する社会の認識を変える
  - 3：命のリレー、24時間ウォーク
- がメインテーマで開催されます。



(昨年参加した時の、栃木県支部のテントです)

昨年は、栃木県支部の参加の決定が7月に入ってからだったので、必ずしも準備が十分にできたとは言えない状況で参加し、多くの方の協力を得て何とか24時間ウォークを成就することができました。今年は、出来るだけ万全の準備をして参加し、本企画の本来の目的達成のために協力したいと思っています。

詳しい開催情報が判りましたら、栃木県支部のホームページでもお知らせしますが、24時間ウォークを途

切れずに完歩するには、多くの会員の皆様のご参加が必要となります。

是非、「リレー・フォー・ライフとちぎ in Utsunomiya 2013」の趣旨にご賛同頂き、9月14日・15日を空けておいて下さい。

「リレー・フォー・ライフとちぎ in Utsunomiya 2013」には参加費等が必要ですが、本支部の活動費の中から支出します。

北里大学病院も、昨年初めて、「リレー・フォー・ライフかながわ」に参加しました。医療関係に多くの卒業生が従事している北里大学としては、参加が遅かったという感じもしますが、「継続は力なり」です。

ご協力、宜しくお願いします。

### 栃木県支部ニュース原稿募集中

支部ニュースは、会員の皆様の交流の場です。皆に知ってほしい、教えたいという情報、こんな活動をしている卒業生が居る、私の自慢、近況等、原稿をお送り下さい。

公序良俗に反しないものであれば内容は問いません。

送り先： 329-0434 下野市祇園2-24-1 滝 龍雄

e-mail: tatabox@kitasato-u.ac.jp

編集後記：昨今の気象状況は不安定で、5月に入っても統計を取り始めて以来の最低気温を記録したとの事です。北海道でも季節外れの雪が降り、お花見が遅れそうとのことです。東日本大震災以来、不安定な天気が続くようです。

6月29日には、衛生学部を昭和59年度に卒業した岩手県立磐井病院 臨床検査科/ICT 統括補佐の高橋 幹夫先生による「東日本大震災における感染制御支援活動から見たもの」と題した講演会を開催します。大震災は日本列島の何処でも、何時でも起こる可能性があります。私達も日々、大震災に対する備えをしておきたいものです。

大いに参考にさせていただきます。(文責：滝 龍雄)



川霧の中で (12月20日11時34分配信読売新聞)